

日本音響学会第151回(2024年春季)研究発表会 講演募集

開催月日：2024年3月6日(水)、7日(木)、8日(金) (現地開催)

講演申込期間：2023年10月24日(火)～11月7日(火)

原稿提出期間：前半 2023年12月13日(水)～12月27日(水)、

後半 2024年1月5日(金)～1月8日(月/祝) (期限厳守)

注) 12月28日～1月4日の間は、担当者が不在のため、一旦、受付サーバをクローズし、2024年1月5日(金)にオープンします。

★重要な連絡事項★

第151回(2024年春季)研究発表会は、**拓殖大学(文京キャンパス)**におきまして、**対面**で開催します。

今季の研究発表会は、通常より10日程早い日程になっておりますので、講演申込、原稿提出期限の厳守をお願いします。

【講演発表の申込・講演原稿の提出等について】研究発表会に係る講演発表の申込・講演原稿の提出等は、原則本学会ホームページに記載するURLから行います。

【講演申込及び講演申込期間について】

- 講演申込期間は2023年10月24日(火)～11月7日(火)です。この期間を過ぎますとお申し込みを受け付けられなくなりますのでご注意ください。
- 講演申込の受領メールは【発表者情報】ページに登録した方のメールアドレスにお送りします。【指導教員】に登録したアドレスではありませんので、ご承知おき下さい。

【原稿提出期間について】

- 第151回(2024年春季)研究発表会における講演発表原稿の提出期間は正月を挟んで前半と後半の2期になります。
- 具体的には、前半が2023年12月13日(水)～12月27日(水)、後半が2024年1月5日(金)～1月8日(月/祝日)です。12月28日～1月4日は、サーバの管理を委託している担当者が不在のため、この間の受付サーバをクローズいたします。なお、1月6日(土)～8日(月/祝日)は、受付サーバは開けておきますが、事務局・サーバ管理会社は休日です。お問い合わせへの対応はできません。ご承知おき下さい。
- 講演発表原稿の提出は、期間を過ぎますと提出できなくなりますのでご注意ください。
- 講演発表原稿の受領メールは【発表者情報】ページに登録した方のメールアドレスにお送りします。

【研究発表会論文集発行日(公開日)】

- 講演論文集の発行日は開催日の2週間程度前になります。特許等の手続きをされる方はご注意ください。第151回(2024年春季)研究発表会の論文集発行日(公開日)は2024年2月21日(水)です。

【早期参加登録について】

- 第151回(2024年春季)研究発表会のweb経由の早期参加登録期間は、2023年11月16日(木)～2024年2月6日(火)です。参加を希望される方は、早期参加登録サイトから登録をお願いします。早期参加登録は、後期参加登録よりも参加費を安く設定しております。早期参加登録をお勧めします。
- 早期参加登録をされた方で講演論文集の事前送付をご希望された方には、講演論文集が事前に届くように送付します。会場受取をご希望された方には、研究発表会会場でお渡しします。
- 参加申込サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメール等でご案内いたします。
- 早期参加登録は、早期参加登録期間であればメールでの申し込みも受け付けます。事務局にお尋ね下さい。
- 早期参加登録をされた時点で、参加の手続きが完了したことになります。原則、手続き終了時からキャンセルはできません。

【後期参加登録について】

- 2024年2月7日(水)～2月27日(火)のweb経由の参加申込は、「後期参加登録」になります。それ以降は、3月6日(水)からの研究発表会会場の総合受付で手続きをお願いします。
- 「後期参加登録」の手続きは、学会ホームページの後期参加登録専用のフォームからお申込みいただくこととなります。また、講演論文集の送付希望の場合は、会期後になる場合があります。研究発表会会場

の受け取りも可能です。

3. 後期参加登録は、早期参加登録よりも参加費が高くなっております。早期参加登録をお勧めします。

【参加登録費】

参加種別	早期参加登録費 (2023/11/16~2024/02/06)	後期参加登録費 (2024/02/07~2024/02/27)
ア. 正 会 員 ………	10,000 円	20,000 円
イ. 終 身 会 員 ………	5,000 円	10,000 円
ウ. 学 生 会 員 ………	3,000 円	6,000 円
エ. 賛助会員所属職員 ………	10,000 円	20,000 円
オ. 会 員 外 学 生 ………	6,600 円	13,200 円
カ. 会 員 外 ………	27,500 円	38,500 円
キ. 高 校 生 ………	無料	無料

※ 「会員外学生」及び「会員外」の参加登録費を改定いたしました。

※ 税区分：ア～エは、不課税です。オ～カは、課税対象(10%)で、税込み価格の金額になります。

注) 2月28日以降は、研究発表会会場の総合受付でお手続きをお願いします。

【研究発表会講演論文集のダウンロードサービス】

第151回(2024年春季)研究発表会では、本会著作権規定第4条に則り講演論文集のダウンロードサービスを行う予定です。講演発表者の皆様には、原稿作成時及び発表時に、著作権規定第7条にご注意をお願いします。本会著作権規定：<https://acoustics.jp/overview/copyright/>

【講演発表の講演の申込、参加に関わる費用について】

講演申込料：講演申込料は、講演申込1件について5,610円(税込)です。招待講演の講演申込料は無料です。詳細は、後掲の「V. 講演申込料」の項を参照下さい。

参加登録費：会員外の招待講演者を除く講演発表者と聴講者は、所定の参加費のお支払いをお願いします。参加登録費の詳細は、後掲の「IV. 参加登録費」の項を参照下さい。

入会手続き：講演発表者は、当学会個人会員(正会員(名誉会員、終身会員)及び学生会員)である必要があります。講演発表を申し込む方で入会がまだの方は、学会のホームページから入会の手続きを行って下さい。

★講演募集要領★

第151回(2024年春季)研究発表会を次のとおり開催します。講演希望者は講演申込要領を熟読の上、期限までにお申し込み下さい。講演申込 URL は、日本音響学会ホームページ (<https://acoustics.jp/>) でお知らせします。

第151回(2024年春季)研究発表会の「講演申込システム」は、2023年春季の「講演申込システム」からマイナーな変更はありますが、ほぼ同様のシステムです。

なお、講演論文集は、プログラム(要領)、講演要旨、講演論文 CD-ROM 等で構成し、A4判、約200ページで発行いたします。

開催月日 2024年3月6日(水)、7日(木)、8日(金)

会 場 拓殖大学文京キャンパス

(文京区小日向3-4-14 (〒112-8585))

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車徒歩3分、東京メトロ有楽町線「護国寺駅」下車徒歩12分。

実行委員長 渡辺 裕二 教授(拓殖大学)

共 催 拓殖大学(依頼中)

開催の形式 第151回(2024年春季)研究発表会は、拓殖大学におきまして、対面で開催します。

講演申込期間 (1) webからの申込；2023年10月24日(火)~11月7日(火)(期限厳守)

web経由での申込ができない方は、事務局にご相談下さい。

(2) 申込確認 e-mail ; 申込受付後直ちに受付サーバから【講演発表者】として登録した方の e-mail アドレスにお送りします。必ず申込確認メールの受領を確認下さい。最終申込ボタンの押し忘れのため講演申込が完了していないケースがあります。なお、受領通知が 24 時間以内に届かない場合は、学会事務局にご連絡下さい(原稿提出先 (2)の e-mail アドレス又は電話番号)。

(3) 前記申込期間終了後の受付はできません。

講演申込内容の修正期間 2023年10月24日(火)~11月7日(火)

◎講演申込期間内であれば申込受付時に e-mail でお送りする「整理番号(User ID)」及び「パスワード」で自由に修正可能ですが、期間後の修正はできませんのでご注意下さい。

講演申込 URL 日本音響学会ホームページ (<https://acoustics.jp/>) でお知らせします。

提出原稿詳細 作成・提出等の詳細は、「III. 提出原稿」をご覧ください。

原稿提出期間 (1) web からの原稿提出 ; 前半 2023年12月13日(水)~12月27日(水)、後半 2024年1月5日(金)~1月8日(月/祝日) (期限厳守)

注) 12月28日~1月4日の間は、サーバの管理を委託している担当者が不在のため、いったん、受付サーバをクローズし、2024年1月5日(金)にオープンします。なお、1月6日(土)~8日(月/祝日)は、受付サーバは開けておきますが、事務局・サーバ管理会社も休日、不在ですので、お問い合わせへの対応はできません。ご承知おき下さい。

(2) web 経由での原稿(2種類)の提出ができない方は、原稿提出期間内に学会事務局までご相談下さい。

(3) 前記原稿提出期間終了後の受付はできません。

原稿提出先 (1) web の原稿提出サイト : 講演申込の受付確認メールに記載

(2) 学会事務局連絡先 : e-mail : asj-meeting@acoustics.jp

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-20 ナカウラ第5ビル2階

一般社団法人 日本音響学会研究発表会準備委員会 (Tel. 03-5256-1020 Fax. 03-5256-1022)

研究発表会論文集発行日(公開日) 2024年2月21日(水)

◎発行日の表示場所は、講演論文集の最終ページ(奥付)及びCD-ROMです。

研究発表会「参加登録」について

聴講者は、必ず参加登録が必要です。講演申込で「講演発表者」に登録された方は、参加登録をされたこととなります。

参加登録は、申込の期日により「早期参加登録」と「後期参加登録」に区分されます。詳細は、次の項をご覧ください。できるだけ早期参加登録をお願いします。

参加費の詳細は、後掲の「参加登録費」の項をご覧ください。なお、スペシャルセッションの招待講演者で会員外の方の参加登録費は招待となります。参加登録の必要はございません。

付記 :

(1) 現在会員外で、講演申込される方は、講演申込より先に入会手続きを行って下さい。「講演発表者」は、会員資格が必要です。(「I 共通事項 1. 講演発表の資格」参照)

(2) 現在会員で会員番号が不明な場合は、学会へお問い合わせいただくか、「不明」とご入力下さい。学会で確認をいたします。なお、入会手続きが終了し、会員番号が不明な場合は、「申請中」あるいは、会員申込受領通知(e-mail)に記載の受付番号(6桁)をご入力下さい。

(3) 参加登録サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメールでご案内いたします。

「早期参加登録」について

(1) 早期参加登録をされた時点で、参加の手続きが完了したことになります。原則、手続き終了時からキャンセルはできません。

(2) 早期参加登録をされた方には、請求書(見積書、納品書を含む)及びご希望により「コンビニ・郵便局払込票」をお送りいたしますので、参加登録費のお振込みをお願いします。お支払いは、請求書到着後、研究発表会開催日までお願いします。

(3) 早期参加登録をされた方には、研究発表会開催前にお手元に届くように講演論文集をお送りします(論

文集の発送は、2024年2月22日頃になります。

- (4) 早期参加登録は、早期参加登録の期間中であれば、前記早期参加登録サイト以外にも e-mail 等でも受け付けます。ただし、請求先、論文集送付先、e-mail アドレス等の必要事項の連絡が必要です。
- (5) 早期参加登録の受付期間は、2023年11月16日(木)～2024年2月6日(火)です。これ以降は、「後期参加登録」になります。
- (6) 早期参加登録の web サイトは、学会ホームページでお知らせします。

「後期参加登録」について

- (1) 2024年2月7日(金)以降は、「後期参加登録」になります。
- (2) web 経由の「後期参加登録」の申込は、2024年2月7日(金)～2024年2月27日(火)です。それ以降は、研究発表会場(拓殖大学)の総合受付でお手続きをお願いします。
- (3) 「後期参加登録」の手続きは、学会ホームページの後期参加登録専用のフォームからお申込みいただくこととなります。後期参加登録専用のフォームでは、請求先、論文集送付先、e-mail アドレス等の必要事項をご記入下さい。
- (4) 後期参加登録をされた方には、請求書(見積書、納品書を含む)及びご希望により「コンビニ・郵便局払込票」をお送りいたしますので、参加登録費のお振込みをお願いします。お支払いは、請求書到着後、速やかにお願います。講演論文集は、2月28日以降にお送りしますが、研究発表会開催期間までに届かない場合もありますので、ご承知おき下さい。
- (5) できるだけ早期参加登録をお願いします。
- (6) 後期参加登録の web サイトは、学会ホームページでお知らせします。
- (7) 会場での参加登録手続きの場合、現金払い(クレジットカード等による電子決済は利用不可)となります。

ポータルサイト 第151回(2024年春季)研究発表会のポータルサイトでは、次のような案内を掲載する予定です。

- (1) スケジュール(口頭発表中一覧、口頭発表会場別、ポスター会場別)
- (2) イベント案内(開催日ごとの行事)
- (3) 「賛助会員ポスター会場」の案内
- (4) 講演論文集への広告出展企業一覧
- (5) ポータルサイトでは、必要な場合、「User ID」と「パスワード」を求めることがあります。
- (6) 講演論文集のダウンロード(ZIP形式)

I 共通事項

1. 講演発表者の資格：当学会の正会員(名誉会員、終身会員を含む)、学生会員であること。

- (1) 会員外の方は、講演申込前に入会の手続きをして下さい。入会申込は、当学会ホームページ(<https://acoustics.jp/overview/membership/>)から手続きできます。
- (2) 研究発表会が始まる1週間前までに入会手続きがなされていない場合は、講演発表は認められません。この場合でも、講演論文集等からの当該講演の削除及び原稿の返却はできません。
- (3) 入会手続き後、会員会費が未納の場合も、発表をお断りする場合があります。
- (4) 既会員で、当該年度の会費が未納の場合も同様に発表をお断りする場合があります。

2. 講演件数：一人2件以内。ただし、数件の講演連名者となることは差し支えありません。

※代理発表について

- 1) 原則として代理発表は認めません。
- 2) やむを得ない事情があり、事前に代理発表届(様式は事務局で準備します)が学会事務局に提出された場合には、連名者にかぎり代理発表を認めることがあります。
- 3) 上述の2)によって代理発表が認められる場合であっても、当初の講演予定者及び代理講演発表者が上記の「講演発表者の資格」を満たさない場合には、代理発表は認めません。
- 4) ポスターセッションの場合も、上述の1)～3)に準じますが、講演発表者が休憩等で席を離れる際の連名者の代理は認めます。
- 5) 栗屋潔学術奨励賞の有資格者の発表で代理発表が行われた場合は、当該発表は栗屋潔学術奨励賞対象者の発表とは認められません。学生優秀発表賞及び音声合成研究奨励賞

吉田賞の場合も同様です。

3. **講演申込料**：講演発表者の参加登録費とは別に、1講演につき、**5,610円(税込)**の講演申込料を申し受けます。2023年秋季から金額が変更になっております。
申込後、請求書(見積書、納品書を含む)及びご希望により「コンビニ・郵便局払込票」をお送りいたします。申込後申込者側の都合で講演が取り消された場合においても講演申込料をいただきます。詳細は、後掲の「V. 講演申込料」の項を参照下さい。
4. **参加登録費**：会員外の招待講演者を除く講演発表者と聴講者は、所定の参加登録費のお支払いをお願いします。参加登録費の詳細は、後掲の「IV. 参加登録費」の項を参照下さい。
5. **講演の区分**：一般セッションとスペシャルセッションがあります。一般セッションは、発表形式により一般口頭発表と一般ポスター発表と表記します。

(1) 一般口頭発表

- ア. 一般口頭発表の講演時間は、講演1件につき15分です。原則として、講演時間が12分、質問時間は3分、あわせて15分とします。
- イ. プログラムの詳細は、決まり次第、学会ホームページ等でお知らせします。

(2) 一般ポスター発表

- ア. 超音波、音声A、音声B、建築音響、電気音響、オーディオ、聴覚(聴覚・音声を含む)及び音声コミュニケーションの8部門を予定しています。プログラム編成委員会において調整した結果、ポスターセッションを開催しない場合も、また、前述以外の部門で一般ポスター発表を開催する場合もあることをご了承下さい。なお、スペシャルセッションでは、ポスター発表は募集しません。
- イ. 一般ポスター発表を希望する場合は、講演申込の際、該当欄をチェックして下さい。
- ウ. 一般ポスター発表への割当は、プログラム編成委員会で決定します。できるだけ講演発表者の希望に添うように編成を行いますが、プログラム編成上の都合によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

(3) スペシャルセッション(SS)

部門ごと又は分野横断的にテーマを選んで、隣接領域の研究者との交流及び新たな分野門の創設を図り、より一層討論の活性化を図るためにスペシャルセッション(SS)を設けます。このセッションには招待講演等が含まれる場合もあります。今回は、次の11テーマを企画します。なお、スペシャルセッションでは、ポスター発表は募集しません。

1) 超音波研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：超音波エネルギーのバイオ・医用応用

英文テーマ：Biomedical applications of ultrasonic energy

主旨：集束超音波や超音波振動の医用応用は以前からあるが、最近その精度や利用技術が向上し、適用範囲を広げている。一方、細胞レベルでの超音波エネルギーの応用など新たな研究も始まっている。それらに関する招待講演数件と一般講演によってSSを構成したい。

2) 騒音・振動研究委員会(その1)

部門名：共催(道路交通騒音)

和文テーマ：道路交通騒音の予測方法“ASJ RTN-Model 2023”

英文テーマ：Road traffic noise prediction model “ASJ RTN-Model 2023”

主旨：本学会が提案する道路交通騒音の予測モデルASJ RTN-Modelは、環境アセスメント、環境モニタリングのために広く用いられている。本予測モデルは、昭和49年から道路交通騒音調査研究委員会で継続的に検討が進められ、近年は5年ごとに最新のデータを反映させたモデルに更新することとしている。ASJ RTN-Model 2018の発表から5年が経過し、2024年4月には、新たにASJ RTN-Model 2023を提案することとなった。今回のモデルで新たに追加された内容や変更点、過去5年間の検討経緯や予測方法の詳細等を報告し、広く意見交換を行う。なお、本スペシャルセッションは招待講演のみで構成する。

3) 騒音・振動研究委員会（その2）

部門名：単独

和文テーマ：カーボンニュートラルに向けた道路交通騒音への取り組み

英文テーマ：Efforts on road traffic noise control toward carbon neutrality

主 旨：国内の自動車交通騒音の環境基準の達成率は緩やかな増加傾向となっているが、依然として幹線道路沿道を中心として更なる低減が必要な状況である。また、自動車騒音に対する苦情についても顕著な減少は得られていない。近年、特に乗用車においてカーボンニュートラルに向けた動力の電動化が進んでおり、騒音規制の強化等の影響も加わって、音源としての自動車も徐々に変化している。このような状況において、日本自動車研究所が主催する「道路交通騒音に関する技術懇談会」では、道路交通騒音に関わる各分野の専門家から得られた情報を基に議論を行ってきた。本スペシャルセッションでは、この結果を整理して公表し、欧州の状況も考慮して今後の道路交通騒音低減に向けた議論を行う。なお、本スペシャルセッションは招待講演のみで構成する。

4) 音楽音響研究委員会

部門名：共催（音響教育）

和文テーマ：音楽家と音楽音響の接点 ―演奏と科学の関係―

英文テーマ：Relation between musicians and musical acoustics

―Case studies scientific perspective on musical performance―

主 旨：2023年度春季、秋季にて同タイトルでSSを実施し盛り上がりを見せた。音楽音響と音響教育分野の総合として、音楽にかかわるものとサイエンス教育研究の接点を議論できた。本SSではその続編とし、引き続き音楽家と音楽音響の研究の接点を探る。特に演奏を科学的に分析する可能性について多方面から調査する。

5) 建築音響研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：音楽のための室内音響設計における課題と工夫

英文テーマ：Issues and innovations in room acoustic design for music

主 旨：コンサートホールや劇場、スタジオなどの室内音響設計では、静謐性の確保を目的とした遮音設計、適度な残響を得るための吸音設計、ならびに、音響障害を避け、可能な限り空間的に均質な音場を生成するための拡散設計が必要となる。さらには、音量や明瞭性を担保するための適切な初期反射音の創出や、各施設における個性・意匠性なども考慮されねばならない。2014年秋季研究発表会のスペシャルセッション「音楽聴取・演奏を目的とした空間に関する最近の研究動向と将来展望」では、比較的“研究”に重きが置かれていたように思われる。それから約10年を経た本スペシャルセッションでは室内音響設計の“実務”に着目し、上記のような難しい問題に取り組みされている方々からのご講演により、具体的な課題とそれらに対する工夫を紹介いただくことで、昨今の室内音響設計のニーズとシーズを共有したい。

6) 音声コミュニケーション研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：調音の可視化とその応用

英文テーマ：Visualizing articulation and its application

主 旨：調音器官は外部から見るのが困難なことが多いが、古くはX線を用いた可視化の様子が報告されて以降、X線マイクロビームやEMA (Electromagnetic articulography), MRI や超音波診断装置など様々な可視化技術により音声研究も発展してきた。その例として、正中矢状面での2次元画像により得られる調音時の舌の形状について、音声学的な解析から構音障害の診断・治療への活用まで、これまで様々な研究が行われてきている。さらに、最近では機械学習を用いた各部位の自動抽出や音声変換、4Dエコーの活用など、様々な方向性への展開がなされている。そこで、本テーマに関し数名の招待講演に加え一般講演も同時に受け付け、広く議論する場を提供する。

7) 聴覚研究委員会

部門名：共催（音楽音響）

和文テーマ：リズムの知覚・生成・同調

英文テーマ：Perception, production, and entrainment of rhythms

要旨：音楽の醍醐味は期待と裏切りにある。この期待は、特定の音列パターンの反復や出現頻度に基づく予測によって生じる。また、短い音系列はその反復や遷移確率に基づいて群化することで階層的な構造が生じる。このような系列の予測と構造化は、楽曲理解にも演奏にも本質的な役割を果たしている。一方で、音楽の拍に合わせて身体を動かす能力は、ヒトだけでなくオウムやアシカなど一部の動物でも見られることから、何らかの生態学的な機能があり、また能力獲得に至った進化的な経緯があるはずである。最近の研究はこういったリズム能力が語音理解にも関与することを示している。本スペシャルセッションでは、第一線の研究者に最近の動向を紹介いただくとともに、テーマに合致する一般講演も募集する。

8) 音声研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：自己教師あり学習を活用した音声・マルチメディア処理

英文テーマ：Speech and multimedia processing based on self-supervised learning

主旨：自己教師あり学習は、ラベルなしデータを用いて音声やメディア情報の特徴を学習する手法である。この手法は様々な音声タスクの精度を高めただけでなく、画像と言語の関連性の理解などマルチメディア・クロスメディア処理の進展にも寄与している。本スペシャル・セッションでは、自己教師あり学習を活用した音声・マルチメディア処理に焦点を当て、第一線の研究者による招待講演や一般講演を通じた情報共有と新たな知見の獲得を目指す。

9) 高臨場感オーディオ調査研究委員会

部門名：オーディオ 共催（電気音響，聴覚）

和文テーマ：高臨場コンテンツ制作とバイノーラル技術

英文テーマ：Binaural technique for high reality audio content production

主旨：高臨場感オーディオ調査研究委員会は、昨今の音響コンテンツ制作現場における立体音響再生技術の実用化を受け、電気音響，建築音響，聴覚，音楽音響，音のデザインなどのそれぞれの分野で進められている研究の情報共有，活性化，実用化を目的としている。本セッションは、近年注目を浴びているメタバースやVR・AR技術でのオーディオ体験の向上に不可欠なバイノーラル技術について最新の動向を紹介するとともに、産学の垣根を超えて学際的なディスカッションを行うことで情報の共有及び当該分野の発展を目指すものである。

10) 音のデザイン音響調査研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：COVID-19 自粛期間中の音環境を振り返る

英文テーマ：Sound environment during COVID-19 lockdown

主旨：新型コロナウイルス感染症パンデミックによる緊急事態宣言期間，そして自粛期間中に生まれた様々な音の問題，音環境の変化などを総括的に考え，それらをどのようにコントロールしてきたか振り返る。

11) スポーツ音響調査研究委員会

部門名：単独

和文テーマ：スポーツと音 その11

英文テーマ：Sports and Acoustics XI

主旨：スポーツ分野への音響学の貢献の可能性を探りながら音響学の新しい分野の構築をめざし、アスリート及び、バイオメカニズムの専門家、スタジアム関係者など、多方面からの議論を続けている。今回は、スポーツやeスポーツと音に関する科学的議論のさらなる深化と展開を期し、スペシャルセッションを実施する。スペシャルセッションは招待講演ならびに一般講演にて構成する予定である。

5. 使用言語：講演及び講演原稿の使用言語は、日本語及び英語とする。

II. 講演申込

1. 講演申込サイト：

(ア) 講演申込と参加登録

講演申込入力後に講演発表者情報をご入力いただきます。この手続きで「講演申込」と同時に「参加申込」も完了したことになります。「講演発表者」として登録された時点で、参加の手続き(早期参加登録)が完了したことになります。原則、手続き終了時からキャンセルはできません。

なお、連名者として記載がある方、「指導教員」として登録される方は、参加登録手続きが必要です。

(イ) 部門の選択

講演申込者は、希望順に3つまで希望部門/SSを選択できます。特定の部門/SSでの発表を希望する場合には、1つのみ選択してください。複数の部門を選択された場合の発表いただく部門の割り当ては、プログラム編成委員会で決定いたします。

(ウ) 講演種別/講演件数の入力(招待講演(会員・会員外区別)/2件発表)

招待講演と2件発表時の入力項目を整理するために、講演内容入力に先立ち、招待講演と2件発表であるかの確認を行います。なお、2件発表申込は、同時申込と追加申込のどちらにも対応しています。講演申込期間終了後の追加申込は、受け付けることができません。

また、2件発表の可能性のある方はあらかじめ2件発表でお申し込みください。

2件申込をされた方には、2件ともに「整理番号(user ID)」、「パスワード」が付与されます。

(エ) 講演申込料・参加費支払方法の入力(請求書及びコンビニ・郵便局払込票の選択)

講演申込料・参加費の支払方法として、請求書(見積書、納品書を含む)及びご希望により「コンビニ・郵便局払込票」を選択していただきます(複数選択可能ですので、必要な方は両方にチェックをお願いします)。

2. 講演申込の概要：講演申込の手順は、次の通りです。

- (1) 講演種別の選択：入力する講演が「招待講演です」又は「招待講演ではありません」を選択。
- (2) 講演件数の選択：講演件数「1件」又は「2件」を選択。
- (3) 講演部門の選択：講演を希望する部門を3つまで選択可能。第1希望部門は必須ですが、第2、第3希望部門は任意です。複数の部門を選択された場合で発表いただく部門の割り当ては、プログラム編成委員会で決定いたします。
- (4) 講演内容の入力：題目、著者リスト、発表原稿のページ数、セッション名・キーワード及び要旨の入力、発表形式の入力、事務連絡事項。
- (5) 発表者情報の入力：発表者情報、請求区分と金額(講演申込料と参加費)、請求関係の入力(請求書区分、請求先、送付先の入力)。
- (6) 記載内容の確認：講演内容の入力の確認、請求先等の確認。
- (7) 投稿の確認：サーバからの受領の確認の画面。

3. 部門の種類、題目、著者リストの表記等

- (1) 部門の選択：部門は、音響教育、超音波、電気音響、オーディオ、騒音・振動、建築音響、アコースティックイメージング、聴覚、聴覚・音声、音声コミュニケーション(音支援(音バリアフリー)を含む)、音声A、音声B、音楽音響、音のデザインの14部門で募集。詳細は、後掲の「表1. 各部門のセッション名のリスト」を参照して希望部門を選択下さい。

第151回(2024年春季)スペシャルセッションは、「I. 共通事項(3)スペシャルセッション」に記載の11テーマで募集します。スペシャルセッションを希望の場合は、ここでスペシャルセッションを選択して下さい。

プログラム編成上の都合で希望部門にならない場合もありますのでご了承願います。

なお、発表件数の多い部門では、講演発表の際に部門内で並行した時間帯となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

これらの部門のうち、「音声A」は機械による音声の聞きとりを目的とした処理過程を扱い、「聴覚・音声」は人(あるいは動物)の聴覚を介した音声(あるいはコミュニケーション音)の聞きとり、処理過程を扱います。「音声B」は音声の産出過程を扱います(何らかの信号処理が施されたものを含む)。「音声コミュニケーション」は人間による音声生成・音声知覚の両方を含む音声言語科学や音声コミュニケーションに関わる周辺分野、言語教育応用・臨床応用などを広く含みます。従って、「音声A」は『音声の認識・強調・翻訳・検索、音声対話システム』など、「聴覚・音声」は『音声の知覚学習過程、主観評価、中枢

機能（聴覚言語障害）』など、「音声 B」は『音声の分析・合成・符号化方式，信号処理』など，「音声コミュニケーション」は『音声科学からその周辺・応用分野まで』などを対象とします。

「音響教育」部門は，音響に関わる教育プログラム，教育システム，教材の開発などのほか，音響教育に関する事例，実践，調査の報告，教育における音の利用など幅広い研究発表も対象とします。

「音のデザイン」部門は，製品音のデザイン，サイン音のデザイン，サウンドスケープ・デザイン，公共空間の音環境デザイン，音のユニバーサルデザイン，映像メディアにおける音のデザイン，あるいは音のデザインの基礎となる音質評価などの研究成果を対象とします。

(2) **題目**：論文内容を明確に表すようなタイトルとし，「〇〇研究第〇報」というような表現は副題として下さい。

(3) **著者リスト**：

「著者区分」は，次の通りとし，「著者区分」に従って，著者区分マークを選択して下さい。

ア. **学生優秀発表賞対象者**：著者区分マーク“☆”

学生優秀発表賞対象者として登録できる方は，講演発表者で，(1)講演の時期において学生会員である者，(2)研究発表会講演申込の際，講演発表者として登録し，かつ講演を行った者，(3)この賞を受けたことのない者，です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように講演申込時の著者区分マーク，要旨及び講演原稿(CD-ROM)の講演発表者氏名の前に“☆”印を付して下さい。

なお，学生優秀発表賞の対象者は，栗屋潔学術奨励賞の対象者にもなります。

イ. **栗屋潔学術奨励賞対象者**：著者区分マーク“◎”，学生会員は“☆”

栗屋潔学術奨励賞対象者として登録できる方は，講演発表者で，(1)講演時において学生会員である者又は当該年度末において満年齢 39 歳以下の正会員であるもの，(2)研究発表会講演申込の際，講演発表者として登録し，かつ講演を行った者，(3)選定の時期において本会会員である者，(4)この賞を受けたことのない者，です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように講演申込時の著者区分マーク，要旨及び講演原稿(CD-ROM)の講演発表者氏名の前に“◎”印又は学生優秀発表賞の対象者は“☆”印を付して下さい。

ウ. **講演発表者で上記ア及びイに該当しない方**：著者区分マーク“○”

エ. **連名の会員**：著者区分マークは無記入

オ. **連名で会員外の方**：著者区分マーク“△”

(4) **発表原稿ページ数**：「2」または「4」ページより選択して下さい。

(重要) 申込確定後の原稿ページ数の変更はできません。申込受領後にそれぞれの講演発表のページ番号を振り分けます。

(5) **セッション名・キーワード及び要旨**：希望のセッション名を一つ選択して下さい（なお，各セッションへの割り当て及びセッション名の決定は，講演申込状況全体を勘案して，プログラム編成委員会で決定します。「キーワード」は5つ程度を入力下さい。「要旨」は発表内容が分かるように 100 字程度で記載して下さい。

(6) **発表形式**：一般セッションの方は発表形式を「ポスターセッションを希望する」，「ポスターセッション／オーラルセッションどちらでもよい」，「オーラルセッションを希望する」のいずれかを選択して下さい。

※一般ポスター発表への割当は，プログラム編成委員会で決定します。できるだけ講演発表者の希望に添うように編成を行いますがプログラム編成上の都合によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

(7) **事務連絡**：プログラム編成委員会・学会事務局へ連絡がありましたらご記入下さい。

4. 発表者情報の入力

(1) **発表者情報**：「講演内容入力」画面で「講演発表者」として登録された方の情報を，入力画面に従って入力して下さい。

(2) **指導教員名**：「講演発表者」が学生会員の場合は，指導教員の氏名，e-mail を入力して下さい。

(3) **請求区分と金額**：講演申込料と参加費，及び合計額を表示します。

(4) **請求書作成情報**：請求書の宛先名を記入し，必要な書類の区分を指定して下さい。

- (5) 請求書送付先：送付先を「勤務先／在学学校等」，「自宅」を指定の上，送付先住所を入力してください。
- (6) 論文集(会期前)送付：論文集の事前送付を希望する方は「希望する」にチェックし，希望送付先を入力してください。
- (7) 事務連絡：発表者情報（講演発表者）画面で学会事務局への連絡事項がある場合は入力してください。
障害等のある方で配慮が必要な場合は必要な配慮事項をこちらにご記入ください。

5. **入力内容の確認**：最後に入力内容の確認画面が表示されます。確認の上，「送信する」ボタンを押してください。

III. 提出原稿

1. **提出原稿**：次の2種類のPDFファイルを用意して提出して下さい。

- (1) **講演論文原稿**（A4サイズ（210 mm×297 mm），縦長，原稿ページ数は2又は4ページ：CD-ROMに収録）
※原稿ページ数は，申込時のページ数と一致させて下さい。申込確定後の修正はできません。申込受領後，全ての原稿のページ数を指定するため原稿提出時の変更には対応できません。

→原稿の詳細は後掲の「2. (2)講演論文原稿の仕様」を参照して下さい。原稿作成のためのスタイルファイル及びテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。このスタイルファイル及びテンプレートは，最新版をご使用いただけますようお願いいたします。

- (2) **講演要旨原稿**（A4サイズ，縦長，1ページ：講演論文集に印刷，レターサイズは受け付けません。）
 →必ずA4サイズで縦長（210 mm×297 mm）で作成下さい。
 →MS-Wordのテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。

2. 講演論文原稿

(1) 概要

- ア. 提出いただく原稿はすべてPDFファイルで提出して下さい。A4サイズ（210 mm×297 mm），縦長。講演申込時に指定したページ数（2又は4ページ）で作成して下さい。容量は原則として**最大1MB**です。**レターサイズは使用しないで下さい。**招待講演のページ数等も同様です。
- イ. この原稿作成のためのLaTeX用のスタイルファイル及びMS-Word用のテンプレートを準備いたしました。本学会ホームページからダウンロードして使用して下さい。
- ウ. LaTeX及びMS-Word以外のソフトウェアで原稿を作成される方は，原稿作成時の上下左右のマージンを守って作成下さい。
- エ. PDFファイルに変換ができない方又はPDF原稿をweb経由で提出できない方は，事務局で代行します。原稿を作成の上，原稿提出期間内に学会事務局に郵送(電子データ)又はe-mail(添付ファイル)でお送り下さい。
- オ. PDFファイルの作成プログラム(ネット上のサイトを含む)によっては，原稿受領サーバーが受け付けないケースがあります。ご注意下さい。

(2) 講演原稿の仕様

- ア. **マージン**：提出いただいたPDF原稿に機械的に講演番号，スペシャルセッションの場合はそのテーマ名，発表会名，ページ数，年月を入れることとなります。従いまして，原稿の上下左右のマージンが守られていない場合は文字が重なることとなります。学会から提示するLaTeXのスタイルファイル及びMS-Wordのテンプレートを利用されない場合は特にご注意下さい。
- イ. **マージンのサイズ**

	寸法(mm)
左マージン	23
右 〃	23
上 〃	17
下 〃	19

- ウ. LaTeXの標準スタイルファイル：ホームページ (<https://acoustics.jp/annualmeeting/>) からダウンロードして入手して下さい。

エ. MS-Word 用の標準テンプレート：ホームページ (<https://acoustics.jp/annualmeeting/>) からダウンロードして入手して下さい。

○ 本文の文字の大きさとフォント種別

Table 1 Fonts to be used in the manuscript

文章の種類	フォントサイズ	日本語フォント	英数字フォント
タイトル	14 pt	MS 明朝	Times New Roman
著者	12 pt		
英文タイトル (脚注)	11 pt	—	
セクション (見出し 1)	12 pt	MS ゴシック	Arial
サブセクション (見出し 2) ※謝辞, 参考文献も同様	11 pt		
本文		MS 明朝	Times New Roman
図表のタイトル			
謝辞本文			
参考文献本文			

*A4 サイズ (210 mm×297 mm), 縦長とし, レターサイズは使用しないで下さい。

オ. 上記のウ又はエ以外のソフトウェアで原稿を作成される方は, 原稿の上下左右のマージンは必ず守って下さい。また, フォントのサイズ, 種別等はできるだけ上記に近い仕様で作成することをお勧めします。上記以外のフォントを用いた場合には PDF 原稿に全てのフォントを埋め込んで提出して下さい。

カ. 講演論文の PDF 原稿のファイル容量: 講演原稿のページ数 (2 又は 4) にかかわらず原則として 1 MB を上限とします。写真等を貼り付ける際は十分ご注意下さい。

キ. その他: PDF 原稿を提出いただくにあたり, 原稿の表現方法が多様になります。幾つかの点について検討をいたしました。現時点で対応している事項は次のとおりです。

- ・カラーの図, 表及び写真等を入れることは問題ありませんが, 原稿の容量が 1 MB を超えないことを条件にします。
- ・参考文献等にリンクを張ることについては, 著者の自己責任を条件に許可します。特に, リンク先が有料の場合のほか, リンク先の著作権を侵害はしないこと等に十分配慮し, 原稿作成時点での確認をお願いします。

(重要)

■PDF 作成上の注意

投稿後, PDF 編集を行う関係上, PDF ファイルに対しセキュリティ設定 (ファイルロック, パスワード等) を行わないで下さい。

必ず A4 サイズ (210 mm×297 mm) で作成して下さい。レターサイズは受け付けません。

3. 講演要旨原稿

(1) 概要

ア. 講演要旨は, 講演論文集に印刷して, あらかじめ聴講者に概要を知らせる目的のものです。約 45%縮小して 1 ページあたり 4 題の講演を印刷します。提出は PDF ファイルで, 使用する文字の大きさは, 講演題目及びタイトル 24 ポイント, 英文タイトル 16 ポイント, 著者氏名 16 ポイント, 本文 18 ポイントで作成して下さい。A4 サイズ (210 mm×297 mm) 1 ページの縦長で, 上下左右のマージンは共に 15 mm 以上として下さい。

イ. 原稿は, 講演番号, タイトル, 英文タイトル, 講演発表者名 (連名含む) 並びに講演要旨等で構成して下さい。作成例及び MS-Word 用のテンプレートを本学会ホームページに掲示します。

講演番号は, プログラム編成委員会終了後の 12 月 8 日頃に e-mail で連絡します。

ウ. PDF ファイルに変換ができない方又は PDF 原稿を web 経由で提出できない方は, 事務局で代行します。

エ. 講演論文集に 1 ページ当たり 4 題となるように縮尺して印刷します。

オ. 講演要旨は, 2024 年 2 月 22 日頃, 学会ホームページ上でも公開します。

■PDF 作成上の注意

投稿後、PDF 編集を行う関係上、PDF ファイルに対しセキュリティ設定
(ファイルロック、パスワード等)を行わないで下さい。

(2) 講演要旨原稿の仕様

ア. 原稿の向き・大きさ・マージン:

A4 縦長とし、マージンは、上下左右ともに 15 mm 以上として下さい。

横長で作成された原稿は縮尺が大きくなるため、印刷すると判読できなくなります。また、レターサイズは使用しないで下さい。

※原稿の向き・マージンは必ず守って下さい。

イ. 記入すべき事項: 講演番号, タイトル, 英文タイトル, 講演発表者名 (連名含む) 並びに講演要旨等。

ウ. 注意事項: 提出いただいた要旨用の PDF 原稿は、45%程度縮小して印刷することになります。

縮小して印刷しても内容が分かるようにポイント数, 行数を十分配慮して作成して下さい。図を用いても結構ですが、縮小に堪えうるものとして下さい。文献等は、講演論文原稿に表示し、要旨には記載しないで下さい。

講演発表時の図, 表作成時の注意点

論文集に掲載される原稿と同様に、発表時に使用する「スライド」や「ポスター」では、図, 表の縦・横軸の説明文や題名等は、英語表記をお願いします。

IV. 参加登録費

1. 参加登録費は、講演発表者を含み、参加者全員から申し受けます。早期参加登録をご利用下さい。

2. 講演発表者は、講演発表の手続きを行った時点で早期参加登録が完了しております。

3. なお、会員外の招待講演者は招待になりますので、参加登録は必要ございません。

4. 参加登録費の中に講演論文集を含みます。

5. 参加登録費は「早期参加登録費」と「後期参加登録費」の2つの区分があり、それぞれの参加費は次の通りです。会期中の会場受付での参加登録費は、「後期参加登録費」と同額です。早期参加登録は、後期参加登録よりも参加費を安く設定しております。早期参加登録をお勧めします。

6. 研究発表会終了後の講演論文集の販売価格は、**会員 22,000 円、会員外 38,500 円**です。

参加種別	早期参加登録費 (2023/11/16~2024/02/06)	後期参加登録費 (2024/02/07~2024/02/27)
ア. 正 会 員 ………	10,000 円	20,000 円
イ. 終 身 会 員 ………	5,000 円	10,000 円
ウ. 学 生 会 員 ………	3,000 円	6,000 円
エ. 賛助会員所属職員 ………	10,000 円	20,000 円
オ. 会 員 外 学 生 ………	6,600 円	13,200 円
カ. 会 員 外 ………	27,500 円	38,500 円
キ. 高 校 生 ………	無料	無料

※ 「会員外学生」及び「会員外」の参加登録費を改定いたしました。

※ 税区分: ア~エは、課税対象外(不課税)です。オ~カは、消費税の課税対象(10%)で、税込価格の金額になります。

注) 2月28日以降は、研究発表会会場の総合受付でお手続きをお願いします。

V. 講演申込料

講演発表には、参加登録費とは別に 1 講演につき 1 件分の講演申込料を申し受けます。講演申込料は 5,610 円(税込)です。2024 年 1 月上旬にご指定の請求書(見積書, 納品書を含む)及びご希望により「コンビニ・郵便局払込票」をお送りします。

「コンビニ・郵便局払込票」で納付いただきますと振込の手数料はかかりません。

銀行振込で納付される場合は、手数料が必要になりますので、ご承知おき願います。当学会郵便振替口座への納付も可能です。

郵便振替先 (社)日本音響学会 00120-9-136290

銀行振込先	三菱UFJ銀行	新宿中央支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	3935498
	三菱UFJ銀行	神田駅前支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	1671112
	三菱UFJ銀行	秋葉原支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	3909748
	みずほ銀行	新宿西口支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	1164066
	三井住友銀行	神田支店	(社)日本音響学会	普通預金口座	2175551

※当学会は、一般社団法人ですが、金融関係では「シャ)ニホンオンキョウガッカイ」で処理されるようです。

懇親会

懇親会は、開催しません。ご了承ください。

表 1. 各部門のセッション名のリスト

部門の種類	セッション名
音響教育	教育プログラム/カリキュラム, 教育システム, 教育音響, 教材, 教育ソフトウェア, 実験, デモンストレーション, シミュレーション, 可視化/可聴化, サウンドスケープ, 音響学の歴史
超音波	物理音響・超音波物性, 非線形音響, デバイス・材料/アクチュエータ, 非破壊検査・超音波計測, 強力超音波・ソノケミストリー, 熱音響, 医用超音波, 音波伝搬, 音響トモグラフィ, 生物音響, 水中音響
電気音響	トランスデューサ (マイクロホン・スピーカ・センサ等), 計測手法, 音源分離, エンハンスメント (雑音除去, 残響除去等), 音源定位・到来方向推定, 音響イベント・音検出/分類, 音場収録・解析, 音場再生・制御, 空間音響・バイノーラル技術, アクティブノイズコントロール・エコーキャンセレーション, ネットワークオーディオ, 音質評価・評価手法, 音響応用, 音響信号処理
オーディオ	3D オーディオ, チャンネルベースオーディオ/マルチチャンネル音響, オブジェクトベースオーディオ, シーンベースオーディオ, コンテツツ制作, 音楽録音, オーディオ符号化, オーディオレンダリング, 残響生成・付加, 臨場感・没入感, 音質評価, 音像, 音場再現, オーディオ信号処理, オーディオアプリケーション
騒音・振動	計測法, 音源識別, 音源探査, 数値解析, 交通騒音, 道路交通騒音, 道路交通騒音予測, 低騒音舗装, 航空機騒音, 鉄道騒音, 機械騒音, 音響放射と伝搬, 固体音, 空力騒音, 気流騒音, 屋外騒音伝搬, 騒音振動制御, 能動騒音制御, 防音壁, 吸音材, 社会調査, 心理評価手法, 心理・生理, 振動と音響, 音質改善, サウンドスケープ
建築音響	音源・伝搬, 音響入射・反射, 拡散・散乱, 吸音, 遮音, 音響材料, 固体音, 床振動・床衝撃音, 理論解析・数値解析, 室内音場, 聴感評価・指標, 音声伝達, スピーチプライバシー・セキュリティ, 音場計測・測定法, 音場制御, 音響設計, 学校音響
アコースティックイメージング	可視化/可聴化, 画像応用, シミュレーション, 音響教育・理解ツール, 感性表現, 立体音響, 計測・解析・評価, デバイス技術, 新しいアプローチ
聴覚	聴覚生理, 中枢機能, 時間知覚, 音像定位, 聴覚心理, マルチモダリティ, 聴覚の時間的側面, ラウドネス知覚, ピッチ知覚, 音色知覚, 聴覚モデル, 福祉音響, 聴覚障害, 動物の聴覚, 動物の聴覚と音声, 音質評価, 聴覚末梢と音声, 記憶とマルチモダリティ, 障害と知覚, 視聴覚, 脳活動計測, 空間知覚
聴覚・音声	音声言語知覚, 福祉音響, 韻律, 知覚と生成, 音声言語習得, マルチモダリティ知覚, 音声言語障害, 音声の評価, 音声言語学習システム, 中枢機能, 発達学習, ピッチとラウドネス, ブレインイメージング, 音声言語・発達, 補聴, 評価・予測

音声コミュニケーション	音声科学 (音声生成・音声知覚), 音声学・音韻論, 言語獲得 (第1言語・第2言語), 言語教育・言語学習, コミュニケーション障害・音声言語治療, 音声言語医学, 音声伝達, 音声言語と認知心理学, 音声言語と言語発達, 音声言語と脳神経科学, 音声言語と福祉, 音声言語と法科学, 人と人の音声対話・コミュニケーション, マルチモーダルコミュニケーション, コミュニケーション支援・学習システム, 音支援 (音バリアフリー)
音声 A	音声認識, 音響モデル, 音響特徴量, 言語モデル, 話者認識, サーチ, 適応技術, 耐雑音性, 音声区間検出, 音声システム・組み込み技術, 音声インタフェース, 音声対話, 信頼度, マルチモーダル, 音声情報検索, 音声ドキュメント処理, 多言語処理・音声翻訳, パラ言語・非言語情報の認識, 音声イベント・環境音, 音声セキュリティ
音声 B	音声分析, 音声合成, 音声・オーディオ符号化, 韻律, 声質, 歌声, テキスト音声合成, 単位選択・素片選択, パラメトリック音声合成, DNN 音声合成, 声質変換, 外国語音声の特徴分析, 言語教育・学習支援, パラ言語・非言語情報の分析・合成, 発話障害, 音声福祉応用・障害者支援
音楽音響	弦楽器, 管楽器, 打楽器, ピアノ, 歌声, 演奏, 振動, 音響分析, 音響合成, 音楽情報処理, 知覚・認知・心理, 音高・音階・音律
音のデザイン	製品音のデザイン, サイン音のデザイン, サウンドスケープ・デザイン, 公共空間の音環境デザイン, 音のユニバーサルデザイン, マルチメディアにおける音のデザイン, 音のデザインの基礎となる音質評価

